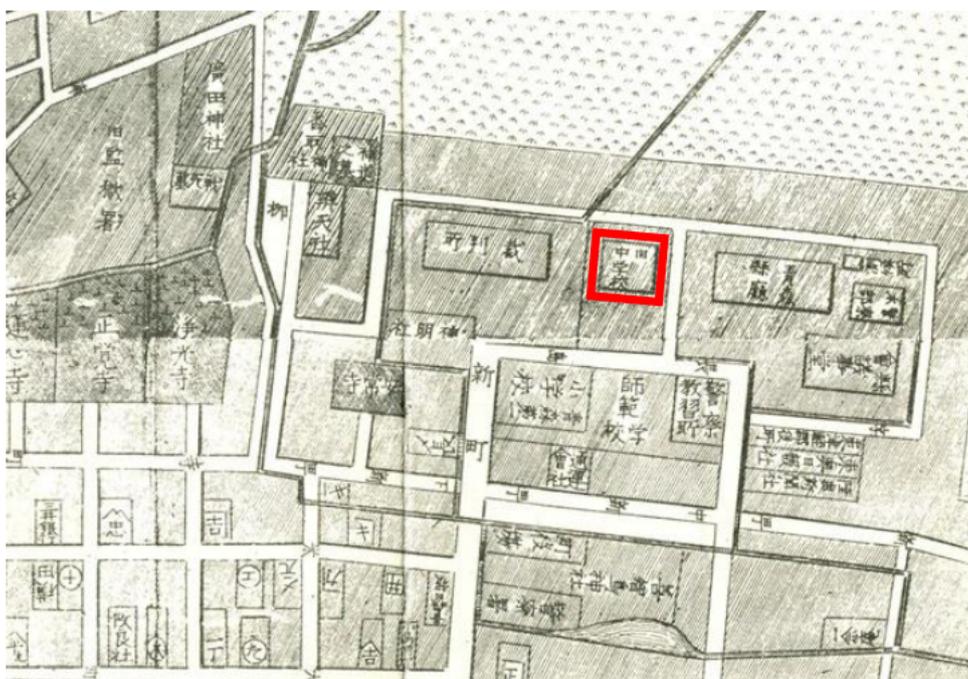


こんにちは！ 室長の工藤です。

青い森公園の西側の一角に、かつて青森県尋常中学校（明治17年<1884>に青森県中学校として開校し、同19年改称）がありました。同校は明治22年5月に弘前に移転となり、敷地には校舎・寄宿舎、そして運動場が残されました。そして、10年余りの時を経て、明治33年9月に現在の青森高校の前身となる青森県第三中学校がこの地に設置（翌年4月1日開校）されることになります。

尋常中学校の移転から10年余、敷地・建物はどのように利用されていたのでしょうか。移転から3年後に描かれた明治25年の地図には「旧中学校」と記されています。

今回は、青森県庁に隣接する尋常中学校の敷地・施設のいわば「空白の10年」を埋めていくことにします。

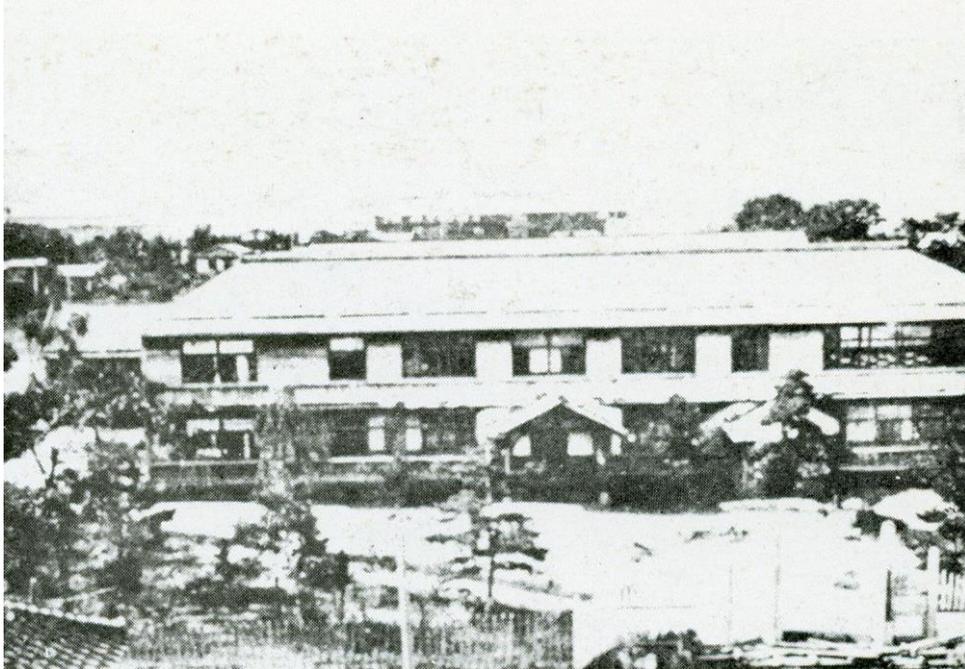


「旧中学校」と記された地図（明治25年「青森実地明細絵図」）

一説によると、尋常中学校の北側にあった師範学校が敷地・施設を使用したともいいますが、事実を確認することはできませんでした。一方、おそらくは校舎の一部を使ってということでしょうけれど、鍋島幹青森県知事夫人などを会員とする青森婦人会が明治22年6月～8月の間に3回会合を開いています。さらに、同年12月1日には校舎もしくは寄宿舎の一部を使って農事試験場の附属施設「物産陳列場」がオープンします。

さらに、翌明治23年4月にやはり北側にあった東津軽郡役所が火事で類焼し、尋常中学校の校舎を仮庁舎として使用することになります。ところが、同年9月9日にさきの師範学校が失火により附属小学校とともに焼失します。そこで、師範学校と附属小学校が尋常中学校の敷地・施設を使って仮校舎とすることになり、東津軽郡役所の仮庁舎は移転することになります。この時、物産陳列場がどうなったかは分かりません。ただ、明治27年6月6日に師範学校の仮校舎が「青森県物産陳列場」となっているので、何らかの形で温存されていたのではないのでしょうか。なお、師範学校は、明治26年11月に現在の市役所本庁舎の位置に建った新校舎に移転します。

そして、明治33年に第三中学校（明治42年3月に青森中学校と改称）がこの地に設置されます。一方、青森県物産陳列場は明治40年代の初めまでに同校の東側に移動しているようです。この移動がいつのことなのか、現在のところ判明していません。また、これらふたつの施設は明治43年5月の大火での焼失を免れましたが、その後青森中学校は移転、青森県物産陳列場は廃止となりました。



第三中学校（『目で見える青森の歴史』より）